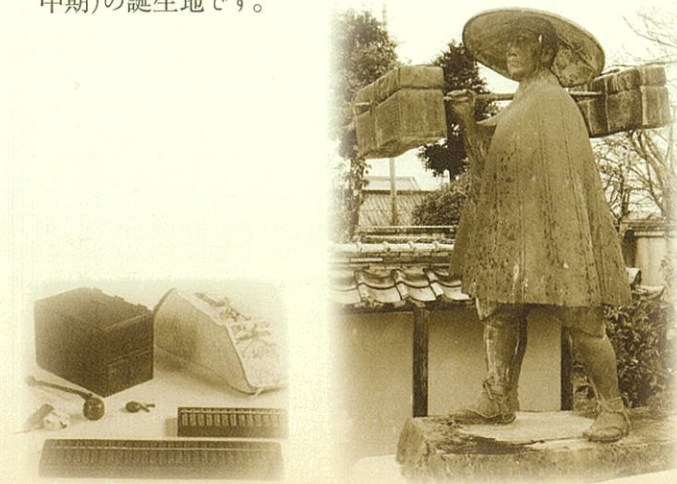


五個荘を通る中山道とは

東近江市五個荘地区を通る中山道は、国道8号の東側を沿うように走っています。ここ中山道五個荘は、南は武佐宿(近江八幡市)と北は愛知川宿(愛荘町)のほぼ中間に位置しており、特徴のある街道の名残りは見られませんが、じっくり見ていただくと当時の旅人の道案内を兼ねた常夜燈、道標、それに茅葺き(葦葺き)屋根の家や商家の邸宅などが昔を思い出させるように見られます。また、道幅が狭く、やや曲がりくねった道には連続した瓦屋根の家が続く様子が残っており、いわゆる“昔の街道の雰囲気”が十分に残っていると思われます。このような往時の中山道を想像して、ごゆっくりとご散策いただければ幸いに存じます。

近江商人と「三方よし」の誕生地

まちむらを結ぶ「道」。人々が行き交い、物・情報・文化が運ばれます。それは、遠く離れた人を結ぶ「心の道」でありました。ここ「五個荘」は、「道」を通じて培った近江商人が最も多く誕生した地であり、近江商人の理念の一つ「三方よし」(江戸中期)の誕生地です。



「三方よし」の精神

近江商人中村治兵衛家「宗次郎幼主書置」が発見された当初、その手紙の内容は、「売り手によし、買手によし」と通じ、当時の近江商人たちが、さまざまな「世間によし」を実践したエピソードが伝えられていることから、江戸中期には、「三方よし」の精神が、近江商人の里「五個荘」に存在したことがわかります。これからの私達も、「三方よし」の精神を考えてみる事も大切ではないでしょうか。

中山道 五個荘



中山道と御代参街道との分岐にあった道標

中山道五個荘にぎわい事業委員会

五個荘地区まちづくり協議会

五個荘コミュニティセンター内

〒529-1422滋賀県東近江市五個荘小幡町318番地

TEL 0748-48-7303 FAX 0748-48-6454

昔話に想いを巡らせ 歩いてみませんか

中山道五個荘の昔話 (江戸時代後期頃からの昔話)

中町

① ② 周辺

越川(愛知川)の無賃橋を渡ると、このあたりから宿屋、茶屋、お多福屋などが軒を連ねている。川止めになると喧嘩や客引きなどで喧嘩騒ぎとなる。「泊らせ御はいりやす」「お休みなあお休みなあ」とお賑わいをみせた。街並を見ると、右に布を商う中村屋さん、続いて越後屋さんと続く。この店は小間物屋さんである。屋根勘旅館という木製の看板が架かっている。宿屋であり焼餅を売っていた。焼餅屋勘兵衛さんと呼ばれ、焼餅は旅人によく好まれた。この先右側の古い民家が名僧東嶺禪師の生家である。今も残るモチの木が素晴らしい。

小幡町

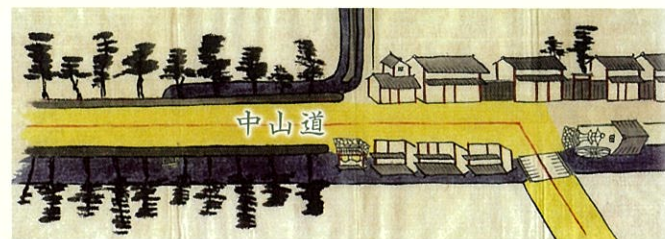
③ ④ ⑤ 周辺

このあたりからは旅籠、駄菓子屋、酒屋などが続く。特に商人宿、旅人宿、木賃宿、等々が並び結構繁盛していた。「ざざざざ越川(愛知川)に水が出たぞ」と半鐘に太鼓が鳴り、越川に水が出れば、多くの旅人は困り果て、水の引くまで何日も宿屋に逗留しなければならなかった。さらに、大名行列、旗本大坂勤番行列、お茶壺行列、公卿閣東下向などが間に入ってくれば、大混雑云々となるのであった。少し歩くと、小幡人形屋が四、五軒あり。この中の人形店(現細居さんの先祖)の安さんは飛脚を業としていたが、賊の難にあい業をやめ、京都伏見の人形店に弟子入りした。修業をする中で、小幡人形という人形を造り出し、人形屋さんに転向したという変わり種である。少し先の三叉路に伊勢道への案内の道標がある。「右京みち、左いせひの 八日市みち」と彫られている。これより御代参街道になり、お伊勢参り等に多くの旅人たちが行き交う姿が偲ばれる。この先の道沿いに「村中安全」と彫られた石造の大きな燈籠が目にはいる。ここは近江商人のルーツ、小幡商人発祥の地である。

宮荘町

大同川・橋 周辺

この先の川に架かる石橋を渡ると、すぐ右側に水車小屋が在る。坪田六左衛門さんの水車小屋で、長年「米つき」を続けてきたという。ゴロン、ゴロンという水車の音が聞こえるようだ。ここにも丈余の大燈籠がある。三段構えの梯子付、「右中山道」と彫られている。ここから道は少し左に折れる。



竜田町

⑥ P 周辺

饅頭屋の天徳屋さんがある。米饅頭の天徳屋か、天徳屋の米饅頭かと言われるほど大評判であった。店の前に松の太木3本あり。そこに赤毛布を掛けた腰掛、床机2・3脚が置いてあり大繁盛していた。「またあいつ 下戸下戸と食べてたおれてる」と川柳にあり、多くの旅人に大評判であり、糸饅頭や米饅頭がよく食べられていた。

三俣町

⑦ 周辺

松並木を左に見ながら少し歩くと、大きな鋳物師の仕事場が数軒続く。徳田相左衛門、藤原家久、西澤弥次右衛門など。近隣の各寺院の梵鐘はほとんどこの鋳物師の作品である。非常に残念であるが、かの戦争に供出し、無くなってしまった。このあたりから、また左側に美しい松並木が続く。

新堂町

⑧ 周辺

このあたりから美しい松並木が目に入る。少し行くと左に大燈籠があり。大燈籠に「左伊勢みち右京みち」の達筆で彫られている。三津理山和尚の筆跡と伝えられている。

北町屋町

⑨ ⑩ 周辺

少し歩くと右側に大豪商の加地源左衛門邸、その裏が蓮光寺。ここに有名な三津理山和尚がおられた。学識高く、歌をよくし、京都香川景樹の門下であった。また頼山陽先生の弟子として、山陽の子三樹三郎と親交し、また、時の勤王志士とも交流し、安政大獄の起る時、幕府に捕縛され、江戸表に護送される。志士達と共に頼三樹三郎、吉田松陰等に出会い、慰問を行うなど、たいした坊さんである。続いて、右側にお豆腐屋、大郡大明神社、商家市田太郎兵衛邸と続く。左側に市田弥惣右衛門邸があり。青蓮院宮様(久邇宮朝彦親王)が逃避され、この邸内に隠れたという。「宮、不敬事件あり」とのみ外不明である。

石塚町

⑪ ⑬ ⑭ 周辺

少し歩くと右手に石塚の一里塚、江戸幕府が開かれた時、徳川家康が中山道を開発して一里(4キロ)毎に土を盛り塚として築いたもので、小さな山でケヤキの木一本が植えられていた。左側の小川に沿った美しい並木があり。続いて、「明八の溜」がある。養魚、植物農園に利用され、夏には蓮の花が美しく咲いていた。

一里塚の傍に矢内屋敷があり。この付近の治安警察を伺った番人の家である。今でいう駐在所のようなもの。名に負う中山道街道筋、強請子雲助駕籠かき、酔いどれ、暴力屋、天下の浪人などをこの人が取り鎮めたり捕縛した。この人は、小柄で腕達者で、棒術の達人であってこのような悪人どもを懲らした強い人である。

山本町

⑫ 周辺

左手に茅葺屋根が見える。片山半兵衛邸である。片山邸は諸侯御小休所として有名であった。今の自宅が本宅で、現在局のあるところが御殿でかなり広大な邸宅であった。当時の見取図からも大名諸侯の御小休所の面目がある屋敷である。宿帳によると、御三家紀州大納様、芸州広嶋の太守浅野安芸守様、長州藩毛利大膳大夫様、肥前佐賀の鍋嶋肥前守様等外様の大名が名を連ねている。

清水鼻町

⑮ ⑯ 周辺

古来より清水が湧き名水の地として栄えた。この湧き水により町の名が付いたものが清水ヶ鼻村は武佐宿と愛知川宿の間の宿場街として大いに栄えた。鎌倉期には「清水ヶ鼻」と呼ばれる。

室町期に合戦があり。観音寺城に進駐していた織田信長の武将丹羽長秀と佐々木の残党建部一族が奪還せんと戦った。江戸期には旅籠、立湯、茶屋が多くあり、角屋という宿屋が有名であった。宿の外料理、銘酒、菓子類、柏尾梅漬、花なんばの煎ったもの、他に日用品なども扱っていた。



10 萬松園(近江商人の本宅)

江戸時代より、呉服卸商いを生業とする近江商人市田庄兵衛家の本宅。明治初期に建てられた風情のある京町屋風建築。市の文化財に指定されています。

11 金毘羅 大権現常夜燈

古来海上守護、祈雨の神として信仰される「金毘羅大権現」と刻まれた常夜燈。天保8年(1837年)12月に建立されました。

12 片山半兵衛家 [近江商人の本宅]

片山半兵衛家は、武佐宿と愛知川宿の中間にあり、小休所として大名や公家などの諸家の小休所を務めていました。片山家は、江戸中期麻布類を商う近江商人として活躍し、地元の名家として知られていました。愛知川の無賃橋の実現にも大きな役割を果たしました。

13 西国三十三番札所 観音正寺への道標

西国三十三か所観音霊場の三十三番札所観音正寺へと続く道を示しています。道標には、「三十三番くわんおん山」足より18丁(約2km)と刻まれています。享和3年(1803年)に建立されました。

14 石塚の一里塚 日本橋より123番目の一里塚

一里塚が全国に整備されるようになったのは、江戸時代慶長9年(1604年)日本橋を起点として全国の街道を整備し、一里(約4km)ごとに両側に一里塚を設置。土を盛り上げた一里塚の上には、ケヤキなどの木が植えられ旅人の休憩場所でした。平成30年(2018年)五箇荘地区の有志により一里塚碑を建立されました。

15 近江商人の発祥の地 てんびんの里のモニュメント

てんびん棒を肩にかついで行商に出る近江商人の青年像。てんびん棒は、売り手と買い手がつりあってこそ商売の基本。儲けは、その地に社会貢献してこそ商いが長くつづくことを象徴しています。

16 清水鼻の名水

湖東三名水のひとつ、清水(湧水)。当時、旅人に潤いを与え喜ばれた名水池。地元の方により保存されています。また、この地は江戸時代初期には、愛知川宿と武佐宿の中間地であり30里(約120km)ごとに置かれた駅家のひとつ清水駅(馬約15頭)が設置された地です。

P 神崎郡役所跡 現在は、駐車場

大正10年(1921年)新築落成。同15年地方官々制改正により廃止された郡役所の地であり、旧神崎郡五箇荘町役場跡です。平成30年(2018年)有志により碑が建立されました。

近くの観光地(金堂町) 重要伝統的建造物群保存地区



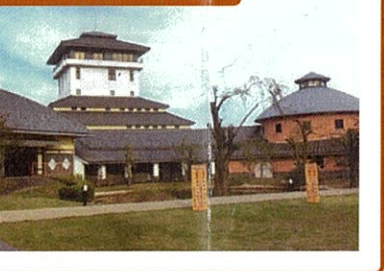
近江商人屋敷(外村繁家)

錦鯉が泳ぐ近江商人の町並み

白壁と蔵屋敷

小幡人形展示(近江商人屋敷中江家)

書の文化にふれる博物館 観峰館(竜田町)



国登録有形文化財 近江商人屋敷[藤井家](宮荘町)

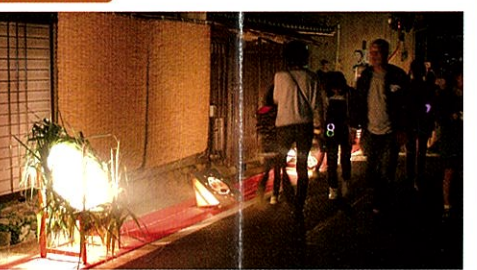


茶ろん 坪六(宮荘町) [中山道マップ設置]

中山道絵図 [中山道マップ設置]



中山道灯り路



毎年9月の第4土曜日に開催される「中山道灯り路」は、中山道沿線の自治会が創意・工夫した灯りが多くの人々を楽しませてくれます。



わが町の 中山道散策MAP

1 睨み燈籠

愛知川の境界に文政8年(1825年)4月に建立。この燈籠は対岸の祇園神社境内西隅の堤防上にある燈籠と対峙して「睨み燈籠」とも呼ばれ、愛知川を渡る人びとの安全を見守り、中山道を往来する旅人の大切な道しるべでした。

2 東嶺禪師誕生の地石碑

東嶺禪師は、享保4年(1719年)この地に生まれ、臨済宗中興の祖・自隱慧鶴に師事し、伊豆に龍澤寺を創建するなど一門の興隆につくしました。寛政4年(1792年)示寂。

3 郷土玩具「小幡人形」

天保13年(1842年)の「宿前後筋村々商人致候」に、2軒の「土人形小売」の記載があります。現在は、九代目細居源悟氏によって受け継がれています。節句人形や和宮下向の際に中山道を通行した飾り馬・牛車など約500種類、彩色豊かな素朴な味わいある土人形です。市文化財に指定されています。年賀切手や年賀はがきに採用されました。

4 地酒・酒蔵 中澤酒造

中澤酒造は昭和23年(1948年)小幡の地で創業されました。現蔵元の中沢一洋さんが、蔵人として研鑽を深め、平成16年(2004年)に自身のブランド「一博」を立ち上げ、念願の自社蔵を復活させました。

5 小幡の道標

御代参街道の分岐にあった旅人にとって重要な道標。今は、近江鉄道五箇荘駅から交差する地点にあり、「右京みち」「左いせひの八日市みち」と刻まれています。(表紙写真)

6 洋館の旧郵便局

旧五箇荘郵便局(現・松居家住宅)として、大正14年(1925年)に竣工。直線と直角で構成されています。大正モダンを彷彿させる貴重な建築となっています。国登録有形文化財に指定されています。

7 鋳物師と梵鐘

三俣鋳物師は、江戸時代初期には、その活躍の記録がみられます。西澤梵鐘鋳造所は、大正2年(1913年)横浜の總持寺に、直径六尺五寸(約2m)という大鐘の鋳造に成功。大正3年(1914年)には重さ3,500貫(13,125kg)という大梵鐘を完成させています。

8 新堂の常夜燈

基壇の部分に「右京道」「左いせひの八日市」と刻まれています。御代参街道に通ずる間道の分岐点。天保15年(1844年)の建立。常夜燈の後ろに走る新幹線は時代の移り変わりを身近に見ることができます。

9 明治天皇北町屋 御小休所碑

向いは、小休所となった市田邸。明治11年(1878年)明治天皇が北陸東海巡幸のおり、北町屋市田太郎兵衛邸で往路10月12日と帰路10月21日御小休されました。市田邸は、呉服商う近江商人として著名です。